

作成日 : 1995 年 2 月 14 日
改訂日 : 2025 年 7 月 23 日

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 : フレオン™ 407C
整理番号 : 39
供給者
会社名 : 三井・ケマーズ フロプロダクツ株式会社
住所 : 東京都港区虎ノ門4丁目1番17号 神谷町プライムプレイス 7F
担当部門 : サーマル&スペシャライズド ソリューションズ事業部門
電話番号 : 050-3823-0650 / FAX番号 : 03-3432-5573
緊急連絡先 : 三井・ケマーズ フロプロダクツ株式会社 安全・環境保安課
電話番号 : 054-334-4827 / FAX番号 : 054-334-2393
※ 休日・祭日・夜間は宿直室 電話番号 : 054-335-5507
推奨用途 : 冷凍、空調機用冷媒
使用上の制限 : 専門ユーザー向けのみ

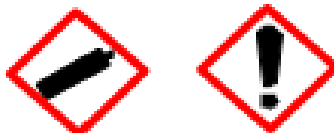
2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性 : 高压ガス : 液化ガス
健康に対する有害性 : 特定標的臓器毒性 (単回ばく露) : 区分 3 (麻酔作用)

ラベル要素

絵表示またはシンボル



注意喚起語 : 警告
危険有害性情報 : H280 高压ガス ; 熱すると爆発のおそれ
H336 眠気又はめまいのおそれ

注意書き :

安全対策 : P261 ガスの吸入をさけること。
P271 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
応急処置 : P304 + P340 吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
P312 気分が悪いときは医師に連絡すること。
保管 : P410 + P233 + P403 容器は日光から遮断し、密閉して、換気の良い場所で保管すること。
廃棄 : P501: 内容物/容器を国際/国/都道府県/市町村の規則に従って廃棄すること。

GHS 分類に該当しない他の危険有害性 :

密閉空間での放出は、酸素濃度の低下による窒息のおそれがある。蒸気は空気より重いので、特に低い場所で局地的な酸素濃度低下を招くおそれがあることに注意する。
誤用または故意に吸入した場合には心拍が不規則になったり、前兆となる症状を伴わず死亡することがある。
裸火や高温に加熱された金属等に接触すると熱分解し、有毒性ガスを発生することがある。
液が皮膚に接触すると、液体の急速な蒸発により凍傷を起こすことがある。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区分 : 混合物
 化学名又は一般名 : R-407C
 別名 : フルオロカーボン 407C

混合物の成分 :

成分名	一般名	化学式	含有量 (%)	CAS No	官報公示整理番号
ジフルオロメタン	HFC-32	CH ₂ F ₂	23	75-10-5	2-3705
ペンタフルオロエタン	HFC-125	CHF ₂ CF ₃	25	354-33-6	2-3713
1,1,1,2-テトラフルオロエタン	HFC-134a	CH ₂ FCF ₃	52	811-97-2	2-3585

4. 応急措置

吸入した場合 :

直ちに新鮮な空気のある場所に移し、毛布等で保温して安静にさせ、衣類を緩めて直ちに医師の手当てを受ける。呼吸が止まっている場合、気道を確保した上で人工呼吸を施し直ちに医師の手当てを受ける。呼吸が弱い場合、人工呼吸が困難な場合は酸素吸入を施し、直ちに医師の手当てを受ける。

皮膚に付着した場合 :

ガスの接触では影響はないが、液体に接触すると凍傷になるおそれがある。液体に接触した場合、濡れた衣類は直ちに脱がせる。衣類が凍り付いて取れない場合は無理に取らずに取れる部分のみできるだけはさみ等で取る(皮膚を傷付けないよう注意しなければならない)。患部をぬるま湯または水につける。熱いお湯につけたり、擦ったりしてはならない。早期に医師の診断を受ける。皮膚が破れている場合は感染症のおそれがあるので、水につけずに直ちに医師の手当てを受ける。

眼に入った場合 :

液体に接触した場合は、直ちに清浄な流水で 15 分以上洗眼し、速やかに医師の診断を受ける。

飲み込んだ場合 :

常温、常圧ではガスなので、通常の使用において飲み込むことは考えられない。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状 :

許容濃度を超えた高濃度の吸入ばく露により、吐き気、頭痛、めまい、錯乱、倦怠感(思考力減退)、筋肉の協調性運動失調、意識喪失のような麻酔性の一時的な中枢神経機能の低下を生じるおそれがある。また、心拍が不規則になったり、心臓が止まったりすることもある。

過去に中枢神経や心臓に病歴のある人ほど、過度に吸入した場合の影響が増幅される。

液体に接触した場合は凍傷になる可能性がある。

応急措置をする者の保護に必要な注意事項 :

被災者を救出する場合は、空気呼吸器、送気マスク等を使用する。

医師に対する特別注意事項 :

エピネフリン等のカテコールアミン系医薬品の使用は、心臓不整脈の原因となる為、緊急の生命維持治療に限って特別な配慮の基に使用してください。

5. 火災時の措置

消火剤 : 本製品は不燃性なので、周辺の火災に対して適切な消火剤を選定し、使用する。

火災時の特有の危険有害性 :

炎による有害性分解物の生成、接触、吸引

過熱による容器の破裂

特有の消火方法 :

【周辺火災の場合】

容器を安全な場所に移動する。移動不可能の場合は、容器に破損が生じないように散水し、冷却する。

容器が破裂するおそれがあるので、冷却作業は十分な距離をとり、風上から行う。

【容器に着火した場合】

可能ならば容器を可燃物から遠ざける。大量の水を注水して冷却し、消火を確認した上で危険を伴わずに出来る場合はガスの漏洩を止める。炎により生成した分解ガスを吸入しないように注意し、周辺の火災の消火に努める。

消火を行う者の保護 :

必要に応じ、防護服又は防火服、空気呼吸器又は循環式酸素呼吸器を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急措置：

大量に漏れた場合は、処置関係者以外を安全な場所に退避させ、漏洩した場所の周辺にロープを張るなどして、人の立ち入りを禁止する。気化した蒸気は空気より重く、低い場所や密閉された場所に溜まりやすいので、室内等の処置作業は酸欠に注意し、十分に換気するか空気呼吸器を使用する。

環境に対する注意事項：

極力大気への放出を避ける。

回収、中和、封じ込めおよび浄化方法と機材：

危険を伴わずに実施出来るときは、容器のバルブを締めるか、漏洩部を塞いで漏れを止める。付近の裸火、高熱源を直ちに取り除く。漏れが止まらないときは、火気のない開放された危険性のない場所に運び出して放出する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策：高圧ガス保安法を遵守して作業する。

充填容器を加熱する時は、温湿布又は 40℃以下の温湯を使用し、ヒーター等で直接加熱してはならない。使用済みの容器は、空気や水分の侵入を防ぐために必ずバルブを閉じて圧力を残す。

局所排気装置・全体換気装置：

作業場は、充分換気する。蒸気の発散を抑え、適切な換気を行って許容濃度を超えないようにする。

安全取扱い注意事項：

吸入したり眼および皮膚に液が触れないように保護眼鏡、保護手袋、保護衣等の適切な保護具を着用し、風上から作業する。充填容器のバルブは静かに開閉する。ポンペを使用しないときにはバルブをしっかり締め、バルブ保護キャップを取り付けて、漏れの防止、バルブ損傷の防止に注意する。ポンペは、バルブ保護キャップを持って持ち上げたり、引きずったり、滑落したり、転がさないこと。移動には、適切な手押し車を使用する。裸火や高温に加熱された金属等に接触すると熱分解し、有毒性ガスを発生することがあるので、取り扱う場合は高温部に液体およびガスが接触しないようにする。

保管

技術的対策：高圧ガス保安法を遵守して保管する。

保管条件：直射日光を避け、低温で換気のよい場所に密閉保管する。特に炎天下の車内は高温になるため絶対に車内に放置しないこと。乾燥した場所に保管し、湿気や水滴による腐食を防止する。容器は転倒等による衝撃およびバルブの損傷を防止する措置を講ずる。熱、火花、炎等が近くにないこと。常に温度を 40℃以下に保つ。子供の手の届く場所に置かないこと。

混触危険物質：アルカリ金属(Li、Na、K)、アルカリ土類金属(Mg、Ca 等)や粉末アルミニウム、粉末亜鉛、塩素、臭素、過酸化水素、オゾン、漂白剤、強酸化剤との接触は避ける。

安全な容器包装材料：F C 三類容器、F C 二類容器、高圧ガス保安法を遵守

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度・許容濃度

成分	一般名	許容濃度		
		日本産業衛生学会 (2024 年版)	ACGIH (2025 年版)	AIHA (2025 年 7 月)
ジフルオロメタン	HFC-32	記載なし	記載なし	WEEL-TWA 1,000 ppm
ペンタフルオロエタン	HFC-125	記載なし	記載なし	WEEL-TWA 1,000 ppm
1,1,1,2-テトラフルオロエタン	HFC-134a	記載なし	記載なし	WEEL-TWA 1,000 ppm

AIHA：American Industrial Hygiene Association (米国産業衛生協会)

WEEL：Workplace Environmental Exposure Limit(作業環境許容濃度)

設備対策：屋内作業場での使用の場合は、許容濃度以下になるよう発生源の密閉化または局所排気を設置し、作業環境の換気を十分に行う。取扱い場所の近くに安全シャワー、手洗い、洗眼設備等を設け、その位置を明瞭に表示する。「火気厳禁」「関係者以外立ち入り禁止」等の標識を見やすい場所に掲示すること。

保護具：呼吸用保護具、保護眼鏡、保護手袋、保護衣等を必要に応じて着用する。

呼吸用保護具：通常の使用条件にて、この物質が許容濃度以下に維持されているなら、空気呼吸器等は必要ない。多量に漏れた場合は、有機ガス用防毒マスク、送気マスク、空気呼吸器等が必要である。
 手の保護具：耐低温用の保護手袋を必要に応じて着用する。
 眼の保護具：眼に液体が入らないように液飛散防止用保護眼鏡を着用する。
 皮膚および身体の保護具：耐低温用の手袋、不浸透性保護衣、長靴

9. 物理的及び化学的性質

物理状態 : 液化ガス
 色 : 無色透明
 臭い : 僅かなエーテル臭あり
 融点/凝固点 : データなし
 沸点 : -44℃
 可燃性 : 不燃
 爆発下限界及び爆発上限界 : 非爆発性
 引火点 : 非該当
 自然発火点 : 685℃
 分解温度 : データなし
 pH : データなし
 動粘性率 : 0.0014 cm²/s (25℃ 飽和液)
 溶解度 : 水の溶解度 0.16 wt% (20℃)
 n-オクタノール/水分配係数 (log 値) : データなし
 蒸気圧 : 1.19 MPa (25℃ 飽和圧力)
 密度 : 1.14 g/cm³ (25℃ 飽和液)
 相対ガス密度 : 3.0 (空気=1)
 粒子特性 : 該当しない

10. 安定性及び反応性

反応性 : 特殊条件下および混触危険物質との接触で反応を起こす可能性がある。
 化学的安定性 : 常温では安定である。重合反応は起こらない。
 危険有害反応の可能性 : 水との反応性なし、酸化性なし、自己反応性なし。
 避けるべき条件 : この物質は、大気圧、100℃以下の場合には、引火性はない。ただし、高圧または高温において、この物質と空気との混合物、または高酸素濃度の空気との混合物は着火源の存在下で可燃性になる可能性がある。この物質と空気、または高酸素濃度の空気の混合物が可燃性になるかどうかは、温度、気圧、および混合物中の酸素の割合、の相互関係に依存する。一般的にこの物質を、大気圧よりも高圧、高温、または高酸素濃度の環境にするべきではない。例えば、リークテストのような目的で、空気と混合させることは避けなければならない。
 裸火、高温表面との接触を避ける。
 混触危険物質 : アルカリ金属(Li, Na, K)、アルカリ土類金属(Mg, Ca 等)や粉末アルミニウム、粉末亜鉛、塩素、臭素、過酸化水素、オゾン、漂白剤、強酸化剤との接触は避ける。
 危険有害な分解生成物 : 熱分解すると、腐食性の強いフッ化水素、フッ化カルボニル等の毒性ガスを生じるおそれがある。

11. 有害性情報

急性毒性

成分名	一般名	急性毒性
ジフルオロメタン	HFC-32	【吸入】ラット LC ₅₀ /4hr 520,000 ppm 無毒性濃度(NOAEC)/犬(ガス): 350,000 ppm 心臓感作 最小毒性濃度(LOAEC)/犬(ガス): 350,000 ppm 心臓感作 心臓感作閾値 犬 : > 735,000 mg/m ³
ペンタフルオロエタン	HFC-125	【吸入】ラット LC ₅₀ /4hr : > 800,000 ppm OECD 試験ガイドライン 403
1,1,1,2-テトラフルオロエタン	HFC-134a	【吸入】ラット LC ₅₀ /4hr 567,000 ppm 無毒性濃度(NOAEC)/犬(ガス): 40,000 ppm

		心臓感作 最小毒性濃度(LOAEC)／犬(ガス): 80,000 ppm 心臓感作 心臓感作閾値 犬 : 334,000 mg/m ³
--	--	---

皮膚腐食性／刺激性

成分名	一般名	皮膚腐食性／刺激性
ジフルオロメタン	HFC-32	データなし
ペンタフルオロエタン	HFC-125	データなし
1,1,1,2-テトラフルオロエタン	HFC-134a	ウサギを用いた試験で、僅かな刺激性(PATTY(5th, 2001))もしくは刺激性を認めなかった(ECETOC JACC No.50 (2006))。 (NITE)

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性

成分名	一般名	眼に対する重篤な損傷／眼刺激性
ジフルオロメタン	HFC-32	データなし
ペンタフルオロエタン	HFC-125	データなし
1,1,1,2-テトラフルオロエタン	HFC-134a	ウサギを用いた試験で、僅かな刺激性(PATTY(5th, 2001))および、刺激性なし(ECETOC JACC No.50(2006))。 (NITE)

呼吸器感作性又は皮膚感作性

成分名	一般名	呼吸器感作性又は皮膚感作性
ジフルオロメタン	HFC-32	データなし
ペンタフルオロエタン	HFC-125	データなし
1,1,1,2-テトラフルオロエタン	HFC-134a	モルモットを用いたマキシマイゼーション試験で感作性を示さなかった (ECETOC JACC No.50 (2006) 、DFGOT vol.13 (1999))。 (NITE)

生殖細胞変異原性

成分名	一般名	生殖細胞変異原性
ジフルオロメタン	HFC-32	マウスの吸入ばく露による骨髄を用いた小核試験 (体細胞in vivo 変異原性試験) で陰性結果(PATTY(5th, 2001))。なお、in vitro試験では、Ames testにおいて陰性、また、チャイニーズハムスター肺細胞およびヒトリンパ球を用いた染色体異常誘発試験において陰性との報告 (いずれもPATTY (5th, 2001)) がある。(NITE)
ペンタフルオロエタン	HFC-125	マウスの吸入による骨髄を用いた小核試験(OECD TG 474) (体細胞in vivo変異原性試験) において陰性結果 (SIDS (2005))。なおin vitro試験では、Ames testで陰性結果 (SIDS (2005))、PATTY (5th, 2001)、チャイニーズハムスターの卵巣細胞および肺細胞、さらにヒトリンパ球を用いた染色体異常試験でいずれも陰性結果 (SIDS (2005、PATTY(5th, 2001))が得られている。(NITE)
1,1,1,2-テトラフルオロエタン	HFC-134a	in vitro での遺伝毒性 : 微生物を用いる復帰突然変異試験(AMES) OECD 試験ガイドライン 471 : 陰性 染色体異常試験 OECD 試験ガイドライン 473 : 陰性 in vivo での遺伝毒性 哺乳動物赤血球小核試験 OECD 試験ガイドライン 474 : マウス 吸入(ガス) : 陰性 哺乳類肝細胞を用いる不定期DNA 合成 (UDS) 試験 OECD 試験ガイドライン 486 : ラット 吸入(ガス) : 陰性

発がん性

成分名	一般名	発がん性
ジフルオロメタン	HFC-32	データなし
ペンタフルオロエタン	HFC-125	データなし
1,1,1,2-テトラフルオロエタン	HFC-134a	ヒト発がん性としては分類できない。 総体的に見て証拠はこの

		物質が発がん性ではないことを示している。 ラット 吸入(ガス) 2 年: 陰性 OECD 試験ガイドライン 453
--	--	---

生殖毒性

成分名	一般名	生殖毒性
ジフルオロメタン	HFC-32	ラット及びウサギを用いた器官形成期に吸入曝露した発生毒性試験において、軽度の摂餌量の低下あるいは体重増加抑制があり、母動物への僅かな影響が認められたが胎子の数、成長および生存に影響はなく、ラットにおいて軽微な変異または欠損の発生率が対照群と比べ僅かに増加したが大きな異常は認められず、総合して両動物種とも催奇形性はなく、仔の発生に対する影響は僅かなものであるとしている (ECETOC JACC No.32 (1995))。しかし、交配前からのばく露による親動物の性機能および生殖能に及ぼす影響に関してはデータがない。(NITE)
ペンタフルオロエタン	HFC-125	ラットおよびウサギの器官形成期に吸入曝露した試験 (OECD TG414) において、母動物の一般毒性 (ラットで不安定歩行の症状、ウサギでは摂餌量の低下) が発現している状況下で、仔の発生に対する悪影響は報告されていない (SIDS (2005))。しかし、親の性機能および生殖能に及ぼす影響に関してはデータがない。(NITE)
1,1,1,2-テトラフルオロエタン	HFC-134a	妊娠に対する影響 : マウス 吸入: 陰性 胎児の発育への影響 : 生殖/発育毒性スクリーニングと反復投与毒性組合試験 ウサギ 吸入: 陰性 OECD 試験ガイドライン 414

特定標的臓器毒性 (単回ばく露)

成分名	一般名	特定標的臓器毒性 (単回ばく露)
ジフルオロメタン	HFC-32	PATY (5th, 2001) でラットの82,000 ppm以上の曝露で音に対する反応が減少しばく露がなくなると急速に回復するとの記載。また、心臓への影響を調べた試験で、前麻酔症状 (head and limb tremors, unsteady gait) の記載がある。(NITE)
ペンタフルオロエタン	HFC-125	ラットにおおよそ 500,000~700,000 ppm の吸入ばく露による死亡はなく、一過性の体重減少のみで症状もほとんど認められていない (ECETOC JACC (1994))。800,000 ppm になると全動物で失調歩行や異常呼吸が観察されたが、ばく露 1 時間後には消失し、病理学的検査でも著しい変化は認められていない (SIDS (2005))。これらの試験濃度は GHS 区分ガイダンス値上限の数十倍の濃度であり、吸入ばく露では区分に該当しない、に相当するが、他経路でのデータがないので「分類できない」とする。(NITE)
1,1,1,2-テトラフルオロエタン	HFC-134a	マウス、ラットおよびイヌに吸入曝露により麻酔作用 (ECETOC JACC 50 (2006)) (NITE)

特定標的臓器毒性 (反復ばく露)

成分名	一般名	特定標的臓器毒性 (反復ばく露)
ジフルオロメタン	HFC-32	ラットに4週間および90日間吸入ばく露した試験において、ばく露による影響は認められず、両試験のNOELはいずれも 50,000 ppm (4週間ばく露の場合の90日補正用量は 15,400 ppm) と報告されている(PATY(5th, 2001))。その結果、NOELがGHS区分ガイダンス値範囲の上限 (250 ppm) を超えていることから吸入では区分に該当しない、に相当するが、他の経路 (経口、経皮) ではデータがなく不明のため「分類できない」とする。(NITE)
ペンタフルオロエタン	HFC-125	ラットを用いた 4 週間(OECD TG412)および 13 週間(OECD

		TG413)の吸入暴露試験において両試験とも重大な毒性影響は認められず、NOAEL はそれぞれ 50,000 ppm(90 日補正值 : 15,386 ppm)および 50,000 ppm と報告されている(SIDS(2005))。NOAEL が GHS 区分ガイダンス値範囲を超えていることから吸入ばく露では区分に該当しない、に相当するが、他経路(経口および経皮)のデータがないため「分類できない」とする。(NITE)
1,1,1,2-テトラフルオロエタン	HFC-134a	ラットに 52 週間吸入暴露(1 日 6 時間)による慢性毒性・発がん性併合試験の NOAEL は 10,000 ppm(ECETOC JACC No.50(2006))、ラットの 90 日間の吸入暴露試験(1 日 6 時間)の NOAEL は 50,000 ppm(IRIS(2003))であり、いずれも GHS 区分のガイダンス値の上限(250 ppm)を超える用量で影響は認められていない。その他にいずれも吸入による試験で、ラットを用いた 28 日間および 13 週間暴露、マウスを用いた 90 日間暴露、イヌを用いた 3 ヶ月および 1 年の暴露の各試験が報告されているが、ガイダンス値範囲内(250 ppm 以下)の濃度における有害影響の記載または報告は見当たらない(IRIS(2003)、DFGOT vol.13(1999)、ECETOC JACC No50(2006))。上記の試験の投与経路はすべて吸入であり他経路でのデータはないが、本物質はガスであり、主なばく露経路は吸入であることから区分に該当しない、とした。なお、健康人のボランティアを用いた試験も実施されているが、本物質曝露による悪影響は報告されていない(ECETOC JACC 50(2006)、環境省リスク評価 第 7 巻(2009))。(NITE)

誤えん有害性

成分名	一般名	誤えん有害性
ジフルオロメタン	HFC-32	GHS の定義におけるガスであり、区分に該当しない。
ペンタフルオロエタン	HFC-125	GHS の定義におけるガスであり、区分に該当しない。
1,1,1,2-テトラフルオロエタン	HFC-134a	GHS の定義におけるガスであり、区分に該当しない。

その他(反復投与毒性)

成分名	一般名	反復投与毒性
ジフルオロメタン	HFC-32	吸入(ガス)90日/ラット NOAEL : 49,100 ppm 毒性学的に重大な影響は見られなかった。
ペンタフルオロエタン	HFC-125	吸入(ガス)13週 /ラット OECD試験ガイドライン 413 NOAEL : ≥50,000 ppm 毒性学的に重大な影響は見られなかった。
1,1,1,2-テトラフルオロエタン	HFC-134a	吸入(ガス)90日/ラット OECD試験ガイドライン 413 NOAEL:50,000 ppm LOAEL : > 50,000 ppm 毒性学的に重大な影響は見られなかった。

12. 環境影響情報

生態毒性

成分名	一般名	生態毒性
ジフルオロメタン	HFC-32	LC ₅₀ /96hr/魚 : 1,507 mg/l ErC ₅₀ /96hr/藻類 : 142 mg/l EC ₅₀ /48hr/ミジンコ属 : 652 mg/l 無影響濃度/30 d/魚(不特定種): 65.8mg/l
ペンタフルオロエタン	HFC-125	LC ₅₀ /96hr/Oncorhynchus mykiss(ニジマス): > 100 mg/l 本情報は、類似する物質から得られたデータに基づく。 EC ₅₀ /72hr/緑藻: > 100 mg/l OECD試験ガイドライン201 本情報は、類似する物質から得られたデータに基づく。

		無影響濃度/72hr/Pseudokirchneriella subcapitata (緑藻): > 1 mg/l OECD試験ガイドライン201 本情報は、類似する物質から得られたデータに基づく。 EC ₅₀ /48hr/Daphnia magna (オオミジンコ): > 100 mg/l 本情報は、類似する物質から得られたデータに基づく。
1,1,1,2-テトラフルオロエタン	HFC-134a	LC ₅₀ /96hr/Oncorhynchus mykiss (ニジマス): 450 mg/l ErC ₅₀ /96hr/藻類: 100 mg/l 本情報は、類似する物質から得られたデータに基づく。 無影響濃度/72hr/Pseudokirchneriella subcapitata (緑藻): 13.2 mg/l 本情報は、類似する物質から得られたデータに基づく。 EC ₅₀ /48hr/Daphnia magna (オオミジンコ): 980 mg/l

残留性・分解性

成分名	一般名	生分解性
ジフルオロメタン	HFC-32	OECD 試験ガイドライン 301D 易分解性ではない。
ペンタフルオロエタン	HFC-125	曝露時間: 28 日 OECD 試験ガイドライン 301D 生分解: 5 % 易分解性ではない。
1,1,1,2-テトラフルオロエタン	HFC-134a	OECD 試験ガイドライン 301D 易分解性ではない。

生体蓄積性

成分名	一般名	n-オクタノール/水分配係数 (log 値)
ジフルオロメタン	HFC-32	log Pow 0.714
ペンタフルオロエタン	HFC-125	log Pow 1.48
1,1,1,2-テトラフルオロエタン	HFC-134a	log Pow 1.06 生物蓄積の可能性は低い。

土壌中の移動性: データなし

その他 : オゾン破壊係数 : 0 (CFC-11 を 1.0 とする)
地球温暖化係数 : 1,624 (CO₂ を 1 とする。ITH=100 年値,
IPCC 第 5 次レポート 2013 に基づく計算値)
大気汚染防止法 : 揮発性有機化合物(VOC)

1 3. 廃棄上の注意

地球温暖化物質を含むため大気中に放出せず下記法令を遵守して処理を行う。
 高圧ガス保安法
 地球温暖化対策の推進に関する法律
 フロン類の使用合理化及び管理の適正化に関する法律 (フロン排出抑制法)
 特定家庭用機器再商品化法 (家電リサイクル法)

使用後の空容器、包装材は再利用、リサイクルのため、容器に表示ある供給者に返却する。

1 4. 輸送上の注意

国際規制 : 国連分類 : クラス 2.2 (非引火性非毒性高圧ガス)
 国連番号 : 3340
 品名 : REFRIGERANT GAS R407C(冷媒用ガス R407C)

国内規制 : 下記、輸送に関する国内法規制に該当するので、各法の規制に従った容器、積載方法により輸送する。
 陸上輸送 : 高圧ガス保安法 第 23 条 移動

道路法：施行令第 19 条の 13 車両の通行の制限
 海上輸送：船舶安全法 危規則危険物告示別表第 1 高压ガス
 港則法：施行規則第 12 条 危険物 高压ガス
 航空輸送：航空法 施行規則第 194 条危険物告示別表第 1 高压ガス

特定の安全対策及び条件：

- ・容器の破損、漏れがないことを確かめ、衝撃、転倒、落下、破損がない様に積み込み、荷崩れの防止を確実にし、直射日光を避ける。
- ・タンクローリー等への充填、積み下ろし時は、平地に停止させ、ブレーキを施し、車止めをして作業を行う。
- ・高压ガス保安法を遵守して輸送する。車両等によって運搬する場合は、荷送り人に運送注意書を交付することが望ましい。

15. 適用法令

化審法：特定化学物質、監視化学物質及び優先評価物質に該当しない
 労働安全衛生法：危険物、特化則、有規則に該当しない
 ラベル表示・SDS 交付義務対象物質（2026 年 4 月 1 日施行）
 （規則別表第 2 の 959）【ジフルオロメタン】
 （規則別表第 2 の 1939）【ペンタフルオロエタン（高压のガスの状態のものに限る。）】
 （規則別表第 2 の 1284）【1,1,1,2-テトラフルオロエタン】
 化学物質排出把握管理促進法（PRTR 法）：非該当
 オゾン層保護法：施行令第 1 条別表第 2
 モントリオール議定書附属書 F のグループ I 【ジフルオロメタン】
 【ペンタフルオロエタン】【1,1,1,2-テトラフルオロエタン】
 フロン類の使用合理化及び管理の適正化に関する法律：第 2 条
 地球温暖化対策の推進に関する法律：第二条第三項第四号に掲げる物質
 高压ガス保安法：第 2 条（液化ガス）
 大気汚染防止法：揮発性有機化合物(VOC)
 毒物及び劇物取締法：非該当
 消防法：非該当
 道路法：施行令第 19 条の 13 車両の通行の制限
 船舶安全法：危規則第 2,3 条危険物告示別表第 1（高压ガス）
 港則法：施行規則第 12 条 危険物（高压ガス）
 航空法：施行規則第 194 条 告示別表第 1（高压ガス）
 海洋汚染防止法：非該当
 水質汚濁防止法：該当
 土壌汚染対策法：該当
 水道法：該当
 下水道法：該当
 廃棄物の処理及び清掃に関する法律：非該当
 特定家庭用機器再商品化法（家電リサイクル法）：施行令第 2 条第 2 項
 外国為替及び外国貿易法：輸入貿易管理令第 4 条 輸入割当（HFC）

16. その他の情報

引用文献：

1. SDS「Freon™ 407C (R-407C) Refrigerant」(130000000517, Revised. 2025/3/5) : Chemours
2. (独) 製品評価技術基盤機構(NITE):「GHS 分類結果データベース」
3. 日本フルオロカーボン協会 環境・安全データ一覧

《記載内容の問い合わせ先》

三井・ケマーズ フロロプロダクツ株式会社
 サーマル&スペシャライズド ソリューションズ事業部門 電話番号：050-3823-0650

<注意>

記載内容のうち、含有量、物理化学的性質等の数値は保証値ではありません。

危険・有害性の評価は、現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、全ての資料を網羅したわけではありませんので、取扱いには充分注意して下さい。

この SDS のデータはここで指定された物質についてのみのものであり、別の物質へ変化させたり、処理したり、あるいは指定されていない工程での使用や、指定されていない材料との組み合わせには有効ではありません。

フレオン™、Freon™および関連のあるロゴは、The Chemours Company FC, LLC の著作権または商標です。